

母子感染について



虫歯になりやすい体質は
後天的に親から子供に受け継がれていきます。

う蝕になりやすい個人になるかどうかは、幼児期にどんな菌叢を周囲の大人から受け継ぐかどうかで決定されます。個人の持つ固有の菌叢はそれぞれ異なり、う蝕菌比率も個人の固有のものと考えられています。う蝕菌のうち特にミュータンスレンサ球菌は、歯牙が萌出するまでは口腔内に存在しません。なぜならミュータンスレンサ球菌は歯牙の上でしか棲息できない細菌だからです。生後19ヶ月から31ヶ月の間に萌出したばかりの歯牙の表面に現れて定着します。これは周囲の大人の口腔からスプーンなどを介して幼児の口腔内に移植されて感染した結果です。この時期に感染する機会がなければ、それ以後は感染する可能性はなくなります。なぜなら、一旦完成した個人に固有の細菌叢のバランスは容易にくずされることはなく、後からミュータンスレンサ球菌が進入してきたとしても受け入れられて定着することはないからです。

個人が固有の口腔内細菌叢を獲得する時期



生後19ヶ月から31ヶ月

この間に個人に固有な口腔内細菌叢のパターンが形成され、それは一生を通じて変わることはないといわれています。したがってその中に有害なミュータンスレンサ球菌を含むか、含まないかは、この時期に決定されます。